



## 2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月14日

上場会社名 株式会社アイリックコーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 7325 URL <https://www.irrc.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 勝本 竜二  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 戸谷 元彦 TEL (03)5840-9551  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け決算説明動画配信予定）

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年6月期第2四半期の連結業績（2022年7月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第2四半期	2,888	13.8	137	△23.8	143	△23.8	74	△32.8
2022年6月期第2四半期	2,538	17.3	180	124.7	188	127.4	111	214.9

(注) 包括利益 2023年6月期第2四半期 74百万円 (△32.8%) 2022年6月期第2四半期 111百万円 (214.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第2四半期	8.61	-
2022年6月期第2四半期	13.02	12.88

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第2四半期	4,594	3,830	83.4
2022年6月期	4,578	3,800	83.0

(参考) 自己資本 2023年6月期第2四半期 3,830百万円 2022年6月期 3,800百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	-	0.00	-	12.00	12.00
2023年6月期	-	0.00	-	-	-
2023年6月期（予想）	-	-	-	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2023年6月期の連結業績予想（2022年7月1日～2023年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,122	17.8	304	△27.2	310	△28.1	179	△30.0	20.65

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年6月期2Q	8,708,000株	2022年6月期	8,568,000株
② 期末自己株式数	2023年6月期2Q	367株	2022年6月期	367株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年6月期2Q	8,681,003株	2022年6月期2Q	8,537,633株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年7月1日から2022年12月31日まで)におけるわが国経済は、ウィズコロナにおける対策や各種政策により、経済活動の持ち直しが見られました。一方で、金融引締め等の継続による世界経済の低迷や、原材料価格及び円安による物価高騰により消費が下振れするなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような外部環境の下、当社は「人と保険の未来をつなぐ～Fintech Innovation～」という企業テーマを掲げ、保険分析・販売支援におけるプラットフォームとしての事業展開を推進しております。また、独自開発した『保険IQシステム<sup>®</sup>』、『ASシステム』、『AS-BOX』及び『スマートOCR<sup>®</sup>』を活用し、システムユーザーの更なる拡大を目指しております。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ・保険販売事業

直営店舗部門は、Web広告からの電話相談・オンライン相談への積極的な集客誘導をベースに、向井理さんをイメージキャラクターとしたTVCMをメインに大規模なプロモーション施策を11月より実施しました。また、時期を同じくして、オリコン顧客満足度<sup>®</sup>調査で保険ショップ部門では史上初の3年連続総合1位を獲得いたしました。その結果、Webによる流入が大幅に増加したことにより予約数は増加し、既存店における直接来店件数も堅調に推移しました。また、第2四半期において2店舗をFC店より買取り、12月末の直営店舗数は60店舗となり、売上高は前年を上回りました。一方で、利益に関しては、積極的な投資により前年を下回りました。

法人営業部門は、新規案件及び既存顧客の大型追加契約の獲得により、売上高は好調な結果となりました。

この結果、同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は1,658,919千円(前年同期比8.2%増)、セグメント利益は127,950千円(同38.8%減)となりました。

#### ・ソリューション事業

FC部門は、12月末のFC店舗数が前期末より1店舗減の194店舗(3店舗オープン、4店舗クローズ)となりましたが、生産性の向上により売上高は増加しました。引き続き、他業種などからの新規参入意欲は大きく、FC登録見込数の増加傾向が続いております。今後も、①新規リクルート活動の強化、②既存代理店への追加出店の提案、③店舗運営指導要員の派遣という施策を実施し、他業界からの新規参入企業への支援と取り組みを行ってまいります。

AS部門は、10月にはASシリーズのユーザーID数が10,000を超え、堅調に推移しました。新たに大手グループの生命保険会社がAS-BOXで利用可能となり、ユーザーのさらなる利便性向上に寄与しました。また、地方銀行への導入は増加しており、銀行の導入は6月末の27行から、12月末において33行となりました。

さらに、AI-OCR・RPAを活用した火災保険見積システムの共同開発をドコモ・インシュアランスと開始するなど、新たな取り組みにも着手いたしました。

引き続き大手保険会社をはじめとした大型案件は複数継続しており、具体的な導入に向けての検討が進んでおります。今後も全国規模の金融機関や保険会社、地方銀行、企業系代理店による新規導入の獲得に向けて注力致します。

この結果、同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は835,552千円(前年同期比15.9%増)、セグメント利益は268,534千円(同4.5%増)となりました。

#### ・システム事業

子会社である株式会社インフォディオは、官公庁関連サービスへのOEM提供や大手企業や生命保険会社など、引き続き『スマートOCR<sup>®</sup>』を含む新規受託開発が好調に推移しました。また、国税庁、統計センターなどのサブスクリプション(定額課金)売上やみずほ銀行などからのリカーリング(従量課金)売上といったストック収益が伸びたことにより、大幅な増収増益となりました。

『スマートOCR<sup>®</sup>』については引き続き多くのお問い合わせを頂いており、今後の当社グループの業績を牽引することが期待できるサービスの一つです。

この結果、同事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は394,165千円(前年同期比38.4%増)、セグメント利益は131,972千円(同837.3%増)となりました。

(注)『スマートOCR<sup>®</sup>』とは、AI(人工知能)を搭載し、ディープラーニング技術(深層学習、人間が自然に行うタスクをコンピュータに学習させる機械学習の手法の一つ)を活用した、非定型帳票対応の次世代型光学的文字認識システムです。

販売費及び一般管理費につきましては、第2四半期に実施したTVCMをメインとしたプロモーションや、人員増による人件費の増加、システム開発に伴うソフトウェア償却等から、当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は2,300,574千円（前年同期比20.2%増）となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高2,888,637千円（前年同期比13.8%増）、営業利益137,851千円（同23.8%減）、経常利益143,440千円（同23.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益74,766千円（同32.8%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は2,910,176千円となり、前連結会計年度末に比べ99,982千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が373,087千円減少したことによるものであります。固定資産は1,684,330千円となり、前連結会計年度末に比べ116,329千円増加いたしました。これは主にソフトウェアが36,738千円、投資有価証券が43,000千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、4,594,506千円となり、前連結会計年度末に比べ16,347千円増加いたしました。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は730,944千円となり、前連結会計年度末に比べ27,919千円減少いたしました。これは主にその他の負債が51,003千円減少したことによるものであります。固定負債は32,693千円となり、前連結会計年度末に比べ14,212千円増加いたしました。これは主にその他の固定負債が14,212千円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、763,637千円となり、前連結会計年度末に比べ13,707千円減少いたしました。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,830,868千円となり、前連結会計年度末に比べ30,054千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払いにより利益剰余金が28,045千円減少し、新株予約権の行使により資本金及び資本準備金が29,339千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は83.4%（前連結会計年度末は83.0%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年8月12日の「2022年6月期決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,233,247	1,860,159
売掛金及び契約資産	633,152	854,423
その他	148,003	202,074
貸倒引当金	△4,244	△6,481
流動資産合計	3,010,158	2,910,176
固定資産		
有形固定資産	250,849	266,376
無形固定資産		
のれん	66,958	61,374
ソフトウェア	469,144	505,883
ソフトウェア仮勘定	37,006	38,673
その他	58,814	50,049
無形固定資産合計	631,923	655,980
投資その他の資産		
投資有価証券	110,900	153,900
保証金	406,976	428,211
繰延税金資産	63,717	78,099
その他	103,633	101,761
投資その他の資産合計	685,226	761,972
固定資産合計	1,568,000	1,684,330
資産合計	4,578,158	4,594,506

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	60,662	114,627
未払金	114,881	112,113
未払費用	52,464	102,256
未払法人税等	118,300	103,850
契約負債	237,900	196,219
株主優待引当金	25,872	—
その他の引当金	3,458	7,556
その他	145,323	94,319
流動負債合計	758,863	730,944
固定負債		
その他	18,481	32,693
固定負債合計	18,481	32,693
負債合計	777,344	763,637
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,325,441	1,354,780
資本剰余金	1,268,517	1,297,856
利益剰余金	1,206,667	1,178,622
自己株式	△391	△391
株主資本合計	3,800,234	3,830,868
新株予約権	578	—
純資産合計	3,800,813	3,830,868
負債純資産合計	4,578,158	4,594,506

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
売上高	2,538,794	2,888,637
売上原価	444,035	450,211
売上総利益	2,094,759	2,438,425
販売費及び一般管理費	1,913,824	2,300,574
営業利益	180,934	137,851
営業外収益		
受取利息	137	138
受取賃貸料	9,718	14,198
受取保険金	—	557
助成金収入	3,990	1,935
その他	216	445
営業外収益合計	14,063	17,275
営業外費用		
支払利息	70	—
賃貸収入原価	6,413	11,477
その他	200	207
営業外費用合計	6,683	11,685
経常利益	188,314	143,440
特別利益		
固定資産売却益	127	—
特別利益合計	127	—
特別損失		
固定資産除却損	597	0
特別損失合計	597	0
税金等調整前四半期純利益	187,844	143,440
法人税、住民税及び事業税	77,640	83,056
法人税等調整額	△995	△14,382
法人税等合計	76,645	68,674
四半期純利益	111,199	74,766
親会社株主に帰属する四半期純利益	111,199	74,766



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	111,199	74,766
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	111,199	74,766
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	111,199	74,766

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2023年2月14日開催の取締役会において、以下のとおり、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

資本効率の向上および株主への利益還元を目的として、自己株式の取得を行うものです。

2. 取得の内容

(1) 取得する株式の種類	当社普通株式
(2) 取得する株式の総数	500,000 株 (上限) (発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合 5.7%)
(3) 株式の取得価格の総額	400 百万円 (上限)
(4) 取得期間	2023年2月15日～2023年8月14日
(5) 取得方法	東京証券取引所における市場買付